幾山河
(若山牧水)

解説 この歌は、「中国を巡りて十首の内」とあり、中国地方の山脈の旅をした時の作である。これは園田小枝子と知り合ったころの作品で、小枝子への愛や高揚感が伴っていたのかも知れない。

幾山河
越えさり
行かば
寂しさの

語釈 ※幾山河Ⅱいくつもの山や河の意。人生を旅とみての幾山河とも解される。※越えさりⅡ移動の意。行ったり来たりという意にも解される。※終てなむⅡ「終て」は「果て」で、「終る、尽きる」の意。

終てなむ
国ぞ
今日も
旅ゆく

通釈 いったい幾つの山河を越えて道移ってゆけば、寂しさの尽きてしまう国があるのだろうか。行っても行っても果てなく続く道のように、寂しさの尽きない国を、私は今日も旅を続けていくのである。